点滴穿石

令和７年度 朝礼（6/30）　校長の話

おはようございます。

今日の四字熟語は「点滴穿石（てんてきせんせき）」です。

小さな水滴が何年も時間をかけて硬い石の上に落ちると、やがて石を穿つ、つまり穴を開けてしまうようになる、ということから「日常の小さな努力をこつこつと重ねればやがて大きな結果につながる」という意味になります。

皆さんには、日頃積み重ねている小さな努力は何かあるでしょうか。そして、それはどのぐらい続いているでしょうか。口に出すのは簡単ですが、実際は、毎日続けるというのは大変なことだと思います。辛い作業だからです。では、努力を続けるにはどうしたらよいのでしょうか。

そのことを考えるのにふさわしいお話があるので紹介します。イソップ物語の「三人のレンガ職人」という話です。

世界中をまわっている旅人が、田舎の道を歩いていると、一人の男が辛そうな顔をしてレンガを積んでいた。旅人は、「ここで何をしているのですか？」と尋ねた。

「見ての通り、レンガ積みさ。朝から晩まで、暑い日も寒い日も、俺はここでレンガを積まなきゃいけないのさ。腰は痛くなるし、手もボロボロだ。もっと楽な仕事をしている奴はたくさんいるのに、俺は本当についてないのさ！」

旅人は、その男に慰めの言葉を残して、歩き続けた。

少し歩くと、また、別の男がレンガを積んでいた。しかし、先ほどの男のように辛そうには見えなかった。

旅人は尋ねた。「ここで何をしているのですか？」

「俺はね、大きな壁を作っているんだよ。これが俺の仕事でね。」

「大変ですね」

「なんてことはないよ。ここでは仕事を見つけるのが大変だけど、俺はここでこうやって仕事があるから、家族全員が食べるのに困らない。仕事があるだけもありがたいことなのさ。」

旅人は、男に励ましの言葉をかけて、また歩き続けた。

少し歩くと、別の男がいきいきと楽しそうにレンガを積んでいるのに出くわした。

旅人は尋ねた。「ここで何をしているのですか？」

「ああ、俺たちは、歴史に残る偉大な大聖堂を造っているんだ！」

旅人が「大変ですね」と言うと、

「とんでもない。俺たちが作った大聖堂で、多くの人が祝福され、悲しみが払われるんだぜ。俺たちは素晴らしい仕事をしているんだ！」

旅人は、感謝の言葉を残して、明るい気持ちで歩き出した。

こういうお話です。皆さんはこの物語からどんな教訓を得たでしょうか。

一人目の職人は、目的もわからずレンガを積むことを命じられただけだから、その仕事が嫌で、嫌でたまらない。二人目の職人は、レンガを積むことで家族を養えるから、仕事があるだけ幸せだと考えている。しかし、まだ目先のことしか見ていないから、どこか心配が残る。三人目の職員は、人々が集う大聖堂を作るという目的がはっきりしているから、レンガの一つ一つが意味のあるものと感じられて、どんな作業も辛くはない。つまり、目指すものが心にはっきりと映し出され、それを信じる心があるから、一つ一つの小さな努力が苦にならないで続いていく。苦になるどころか、その作業が楽しくてしかたがないのです。

小さな努力を続けていくには、三人目の職人のような気持ちをもつことが大切だと、このお話は教えてくれています。皆さんも、最初から無理と思わず、かなえたい目標をはっきりと心の中に描いてみてください。水滴が石を穿つように、必ず大きな結果を残すことができると思います。

先生の話は以上です。